

■フランス：需給逼迫で大規模停電の可能性

フランスの通信社は 2011 年 10 月 26 日、フランス国内における今冬の大規模な停電リスクについて報道した。冬季のフランスでは暖房需要が大きく、気温が 1 度低下すると約 230 万 kW の電力需要が増加すると言われる。大寒波に見舞われて国内の供給力が不足した 2010 年末は、ドイツ等の近隣国から最大で 800 万 kW 分の電力を輸入したが、今冬は 8 基の原子炉（約 840 万 kW）を停止中のドイツからの輸入はほとんど期待できず、気温が大幅に低下した場合には、需給が逼迫し、大規模停電に至る可能性があるという。ただし報道では、フランス国内の原子炉の稼働状況が改善していることや、ドイツで石炭発電所などの稼働が増加すると予想されることから、深刻な事態を回避できる公算も高いとも述べられている。ベッソン・エネルギー担当大臣は、今冬の国内の需給逼迫リスクを認めた上で、極端な悲観主義に陥る必要はないと冷静な対応を呼びかけている。